

2018年5月16日

愛知障害フォーラム（ADF）

代表 加賀時男

## 名古屋城木造復元天守閣のバリアフリー化方針に対するADF声明

愛知障害フォーラム（以下、ADF）は、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病などの障害種別や立場、考え方の違いを超えて、障害当事者や家族の団体、そして支援者などの関係団体、県下29団体が一緒になって、障害者の権利擁護と愛知県における障害福祉施策の充実のため取り組みをおこなっている団体です。

名古屋市は2018年5月8日に開催された名古屋市障害者団体連絡会において「木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針(案)」を示し、「史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をする」との基本方針を出しましたが、私たちADFは、この方針に対し、強く抗議をすると同時に、再考を求めます。

名古屋城木造復元天守閣のバリアフリー化に関しては、昨年11月に当団体より、名古屋市に対して公開質問状を提出しました。その後も、障害者団体はもとより、「愛知県人にやさしい街づくり推進委員会」や「名古屋市障害者施策推進協議会」が要望書を提出するなどエレベーター設置の必要性を求める声が出されてきました。

また、4月24日におこなわれた「特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議」では出席者の方々から「守るべきは骨組みや外から見える部分。100%忠実の必要はなく、不便なものを造るべきではない」、「エレベーターは急病人の緊急搬出のためにも必要」、「高齢者や障害者の安全安心のために、エレベーターという今日の技術を中心にバリアフリー対策をするという事は必然である」といった意見が出されました。

現在、国においてはバリアフリー法及び関連施策の見直しが図られ、名古屋市においては、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」制定の検討が進められています。さらに、「第3次名古屋市障害者基本計画」では重点的に取り組む施策として「障害を理由とする差別の解消を進めるとともに、アクセシビリティの向上と権利擁護の推進を図ります」と掲げられています。

これまで名古屋市は「障害者団体などの意見を聞いてエレベーター設置問題を判断する」という趣旨を繰り返し表明していましたが、障害者や高齢者の意見が反映されることなく、当初からの計画である「エレベーターを設置しない」と決定されたのは、遺憾と言わざるを得ません。

共生社会の実現、互いの違いを認めあう多様性社会の実現が求められている中、「エレベーターを設置しない」という考え方は、あまりにも一方的で、弱い立場の意見を無視した、「人権侵害・差別」であり、到底、承服できるものではありません。

またエレベーターは障害のある人だけでなく、高齢者、ベビーカーを使用する人、小さな子ども、大きな荷物を持った観光客などすべての人にとって有益なものであるのはいうまでもありません。

ADFは今後も名古屋城木造復元天守閣へのエレベーター設置を求め、諦めず、継続した活動をしていく決意です。